

富浦寮の工事の様子について

副校長 細井 宏一



富浦寮は、管理棟（食堂・厨房・風呂のある棟）と宿泊棟（児童等が泊まる部屋のある棟）とが連結した構造で、平成16年に宿泊棟を改築しました。管理棟が残っていましたが、平成26年度に菊泉会総会にて改築が決定しました。（左写真奥に写っているのが、宿泊棟です。）

ところが、工事にすぐには取りかかれませんでした。それは寮の場所が国の指定史跡だったからです。寮は里見氏（戦国期の大名）の「岡本城」があった山の中腹に位置しています。城の存在は分かっていたのですが、それまで特別な制限はありませんでした。しかし当時の2年前、平成24年に館山にある稲村城跡と共に国指定史跡となっていたのです。そのため、改築前に土地調査等を行わなければならず、工事許可がおりるまでに予想以上に時間を要してしまいました。「里見氏」「岡本城」の歴史を、HP等の資料から紹介します。

里見氏は、戦国期の房総南部を拠点とした戦国大名である。上総や下総の支配をめぐり、後北条氏と対立するが、一方その時々的情勢に応じて上杉氏や武田氏と同盟したり、後北条氏と和睦するなど関東地方へ多大な影響を及ぼした。『里見氏代々記』『房総里見軍記』などの軍記物によると、水軍を編成し敵対する後北条氏を攻めるため相模へ侵攻したと伝えられるなど、関東では数少ない水軍を擁した一族としても知られている。江戸時代まで10代、約170年間にわたり、房総半島南部を拠点としたが、その時々状況に応じて城を変えている。岡本城跡は天正8年、8代里見義頼（よしより）が拠点とした城である。東京湾を望む丘陵上に造られ、城の規模は東西600m、南北300mにも及びこの地域の城としては非常に大きな規模と複雑な構造を誇り、中心部分は3つの曲輪（くるわ）から構成され、斜面下から海に向かって広がる曲輪は港としての機能を持っていたと推定されている。

小学生の歴史学習に出るようなメジャーなものではありませんが、「水軍を擁した…」 「城に港の機能が合った…」等は、好奇心をくすぐるものもあります。南房総市教育委員会学芸員の方の話によると、私たちの富浦寮は、城のあった山の中腹の平場にあるため「城の重要施設があった可能性がある」と、研究者から注目されている場所だったようです。

少し時間はかかりましたが、南房総市の方々のご協力もいただきながら、H29年8月、ようやく工事許可をいただくことができました。10月に起工式（地鎮祭）を行い、本格的に工事が始まっています。先日（11月）の視察では、山側に土砂崩れ止めの擁壁ができ、管理棟本体の基礎を作成中でした。完成は、来年（H30年）5月をめざしています。

「文化財指定が無ければもっと早くできたのに…」という思いもありましたが、国指定という重要な歴史ある場所に寮を建てさせていただけることに感謝しつつ、児童だけでなく、保護者の皆様、地域の皆様からも愛される施設になるように、努力してまいります。建築進行状況を、機会がありましたらまたご連絡いたします。



